

令和6年度 第1回御殿場市子ども・子育て会議議事概要

- 1 日時 令和6年9月10日(火) 午前10時00分から午前11時20分
- 2 会場 林業会館 1階 第1研修室
- 3 出席者 本崎肇委員(会長)、内山一世委員(副会長)、鈴木崇吉委員、石川裕也委員、石井有加里委員、秋岡智子委員、砂山絵美委員、井上郁子委員、勝又遼平委員、勝又秀文委員、時田礼美委員、馬淵昭彦委員、林典男委員、渡邊亜希子委員
計14人
- 4 欠席者 山崎弘樹委員
計 1人
- 5 オブザーバー 計画策定コンサルティング (株)アールピーアイ栃木
計 1人
- 6 事務局 計10人
- 7 会議の内容
 - (1)開会
 - (2)委嘱状交付
 - (3)自己紹介
 - (4)会長、副会長の選出
 - (5)報告事項
 - 議題(1) 第二期御殿場市子ども・子育て支援事業計画の実施状況報告について

<議題(1)に対する質疑応答>

委員：基本計画での子どもとは何歳までを定義づけるか。また、資料2 1、3ページ「担当部署の評価」内にそれぞれ「保育ニーズの高まり」とあるが、どういった意味か。

事務局：1点目について、教育、保育については0歳～5歳児までを対象とし、地域子ども子育て支援事業については未就学児～小学生までを対象とする。

2点目について、1号認定は幼稚園に通う子が対象であり、教育ニーズと考える。教育ニーズが下がり、保育ニーズが高まったという評価である。

委員：わかりづらいが、0歳～小学生までということよろしいか。

事務局：そのとおり。

会長：ニーズの高まりの話があったが、全体の子どもの数は減っていて、その中で1号認定で幼稚園に通う子どもは減り、保育園に通わせる保育のニーズが高まってきているということ。

委員：わかりづらい。

事務局：小学校に上がる前に、幼稚園か保育園か認定こども園か選択をすると思うが、その中で幼稚園より保育園を選択する方が増えてきているという考え方。

委員：資料2 25 ページ「病児保育事業」の内容説明の中で、「専用室」とあるが、どういったものか。職員室とは違うか。

事務局：公立には無いが、私立で病児保育事業をやっている施設においては専用室がある。病児が急な病気対応、病後児が回復期対応である。

委員：資料2 30 ページ「R6 以降の方向性」のなかの新生児出生通知書だが、現状ハガキか？オンラインか？

事務局：現在はハガキである。

委員：子どもが生まれた直後は大変なので、便利になれば有難い。

事務局：進めていく。

会長：特に質疑が無いようなので、次の協議事項に入る。

(6)協議事項

議題(1) 第三期御殿場市子ども・子育て支援事業計画の策定について

<議題(1)に対する質疑応答>

委員：資料3-3 48 ページ「こども誰でも通園制度」だが、御殿場市はいつ、どこでなど具体的なことは検討段階か。

事務局：国は、令和8年度より開始を決定している。市としては、現在検討中。

委員：令和8年度からは、手を挙げた自治体が実施するということか。

事務局：必ずやる必要があるが、ニーズ量や対応可能施設などまだ調査段階。皆様の意見をいただきながら進めたい。

委員：資料3-3 48 ページ「こども誰でも通園制度」以外の3事業は、令和7年度から実施するのか。また、「児童育成支援拠点制度」は、虐待案件などで児童相談所等と連携して進めてくイメージだがいかがか。

事務局：「子育て世帯訪問支援事業」は、今年度より対応予定。「児童育成支援拠点制度」は、国より虐待やネグレクトを防ぐため子ども家庭センターを作るよう指示されている。こちらも今年度より健康推進課と連携し取り組んでいく。これら事業は、現在始まっていると理解いただきたい。

委員：資料3-3 28 ページ「放課後児童クラブの利用状況」について、利用したい方が7%増えているが、地域差はあるが、施設は足りているか。

事務局：放課後児童クラブは、どうしても地域差は生じてしまう。公立児童クラブと私立児童クラブで市内を賄っている状況。公立児童クラブに入れなかった子どもは、送迎を利用し民間の児童クラブに通っている。この送迎費用は今年度より市から補助している。形は色々だが、すべての小学校区に放課後児童クラブを設置しニーズにこたえている。

委員：本計画とこども条例との整合はいかがか。

事務局：本計画でどのように触れていくか検討していく。

会 長：総合計画との関係性はいかがか。

事務局：資料3-3 3ページにおいて、総合計画との位置づけについては記載しているが、こども条例との関連は記載がないので検討する。

委 員：資料3-3 48ページ「子育て世帯訪問支援事業」は今年度から実施との話だが、この人材確保はどのように考えるか。現在、ファミリーサポート等も人材が足りていない状況。

事務局：人材確保は大きな課題。募集しても中々集まらず苦しい状況。引き続き皆様の力も借りながら、人材確保の課題に向き合っていきたい。

委 員：人材確保の課題は、保育についてすべてに関係してくる問題。他の市に人材をとられてしまわない様に、御殿場市の良さをアピールできる施策を通じ、保育士確保、人材確保の課題に前向きに取り組んでいただきたい。職員が足りず、定員まで預かれない状況。効果的な対策についてだが、職員の給与の問題が一番大きい。神奈川県が近い事もあり、比べて判断されることがある。情報を集め、何が有効か色々な角度から検討していただきたい。

委 員：神奈川県でいうと、借上社宅で遠方から人材が来る、給与面や待遇面でも良さがあるので、そういった部分も含めてご検討いただきたい。

事務局：具体的なことは申し上げられないが、検討していく。

委 員：予算がなくては何もできない。子どもに対して予算を確保していただきたい。

会 長：神奈川県と静岡県では、最低賃金や有効求人倍率にも大きな差がある。また、保育学科の生徒 40%が保育士にならないという現状があるようだ。保育の人材確保が非常に厳しくなってきている。今後、様々な面で見直しが必要。

委 員：資料3-3 41ページの「計画における事業の質の視点」として、安心だけでなく安全という視点も大事にしていきたい。しっかりとした施設体制を作り、運営していただきたい。

事務局：記載等検討していく。

<議題(1)に対する決議・可決>

会 長：議事を終える。

(7)その他

委 員：以前保育幼稚園課に在籍していた指導員が、長年かけて保育園を回って作った冊子がある。時間があれば、皆さんに読んでいただきたい。

その外、事務局から情報提供を行った。

保育幼稚園課) ・第2回御殿場市子ども・子育て会議の開催について

(8)閉会